2025年（令和7年）
6月12日
（第三種郵便物認可 昭和23年4月15日）
毎月3回発行（第1,第2,第3木曜日）

今号の特集

▷夏物麺類特集 ④～⑤面
▷食用ごま・ごま油特集 ⑥面

中部飲食料新聞社ホームページ
http://chuin.net/【業界情報発信中】

「味の素®」は、うま味調味料です。さとうきびの糖蜜を発酵させてつくっています。

第3546号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5－18－9
電話（052）571－7116代表
FAX（052）571－7118
東京局
東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話（03）5614－7531
FAX（03）5614－7532

中部飲食料新聞

大正から 食を伝えて100有余年

清涼飲料5社
社会課題対応研究会
待機時間、荷役作業削減も早く成果

アサヒ飲料、伊藤園、キリンビバレッジ、コカ・コーラ ボトラーズジャパン、サントリー食品インターナショナルの清涼飲料5社は昨年11月に「社会課題対応研究会」を正式に発足。物流2024年問題や、温室効果ガス（GHG）排出量削減、食品ロス問題などの各種社会課題について幅広く議論を重ねてきた。

これらのテーマのなかでも、特に物流2024年問題を背景とした「物流」課題では消費者へ商品の安定供給を図るため、喫緊の共通課題として議論を進めてきた。このなかで「トラックドライバーの待機時間」「荷役作業発生件数の削減」は、物流パートナー企業や取引先の理解、協力を得ながら改善策を進めてきた。今回、これまでの取組みにより、「待機時間削減軒数（主に待機時間1時間以上の件数）」は5社計で平均約40％削減し、「荷役作業発生件数」は5社計で平均約30％削減（期間は24年3月～25年2月の1年間の実績）の改善ができたことを報告した。

さらに参画する5社について、アサヒ飲料と伊藤園、伊藤園とコカ・コーラ ボトラーズジャパンによる往復輸送、伊藤園の日清食品や全農グループとの往復輸送、コカ・コーラ ボトラーズジャパンと湖池屋の共同輸送、キリンビバレッジと花王の共同配送、サントリーグループのダイキン工業との共同輸送やサッポログループとの往復輸送など、「物流の効率化」や「GHG排出量削減」に向けた取組みを実施している。

このほか同研究会では、省庁や異業種の物流研究会との情報交換や協議の場を持つなど個社単位では解決が難しい社会課題を各方面との協働で改善に繋げる活動にも取組んでいる。

同研究会及び参画企業では、今後とも業界の諸課題解決のほか、飲料容器を中心とした資材の観点での社会課題の改善につながる領域の探索など、様々な社会課題に対応する議論・研究を引き続き進める。

イオン
名古屋などで備蓄米を先行発売し大きな反響

イオンは、政府が管理する備蓄米を随意契約で調達、6月1日から都内の1店舗で、6月2日から千葉、愛知、大阪の各1店舗で先行販売を実施した。

米不足の状況が続くなか、同社は日本の米のおいしさや食文化を守るため、グループ一括調達を通じてコスト削減に努めている。そのなかで備蓄米販売の随意契約を締結し約2万トンを調達。先行販売として特に要望の多い都市部の店舗を中心に販売を実施。準備が出来次第、全国のイオン店舗でも順次販売を行う。

愛知県ではイオン熱田店（名古屋市熱田区）で先行販売を6月2日に実施。備蓄米5kgを一九八〇円（税込二一三八円）で4200袋を販売。午前3時から並んだ人など約1千人が並ぶなど大きな反響となった。先行販売に際して中部カンパニーの石河康明支社長は「お米を安定した価格で販売して欲しいとの声が多いなか、イオンとして日本の食文化を守るためにグループの一括調達を通じた取組みで進め、ブレンド米や輸入のカルローズ米「かろやか」の販売などを実施。今回、備蓄米の先行販売を、特に困っている人の多い都市部の店舗のイオン熱田店で実施する。早い時間から多くの人が並んでいるのは、地域の人から頼りにされている証だと捉えている。小売の使命は安定して商品を販売していくことであり、米不足のなかでもどかしい気持ちであったが、欲しいと思う多くの人にお米を届けたい。そしてまだまだ供給は逼迫しているので、引き続きお米に関する取組みをしっかりと行っていきたい」と挨拶した。

日清食品×T2
自動トラックの幹線輸送実験開始

日清食品と㈱T2（東京都千代田区）は、T2の自動トラックを用いた幹線輸送の実証実験を、関東と関西を結ぶ高速道路の一部区間で今年6月5日と6日に実施した。

トラックによる物流では、貨物の最大積載量は「重量制限」で決まることが多く、積載可能重量近くまで積み込んでも荷台の容積には余裕があるが、日清食品の即席麺のような軽量貨物は「容量制限」で最大積載量決まる。このため「軽量貨物を効率的に輸送するためにはトラックの荷台の容量を最大限に活用すること」がポイントになる。

レベル4自動運転トラックによる幹線輸送サービスを2027年に開始することを目指す日清食品とT2の両社は今回、軽量貨物輸送で一般的に使用されている12型パレットを用いてトラックの容積を最大限に活用する輸送モデルが、「自動運転」という新たな技術環境下でも機能するかを検証。まずはレベル2自動トラック（※ドライバーの監視の下に行われる特定条件下での高機能自動運転）での実証実験を行う事となった。

1日目の往路は日清食品の関東工場（茨城県取手市）から関西エリアの自社倉庫（大阪府摂津市）、2日目の復路は日清食品の関西工場（滋賀県栗東市）から関東エリアの委託倉庫（神奈川県横浜市）。日清食品が拠点・運行ルートの選定や実証貨物の手配、T2が全体マネジメントや実験用車両の手配を担った。今回は主に「貨物を積載した幹線輸送における自動運転の走行ルートと走行所有時間」「停滞や気象など事前に選定した条件における走行オペレーションの有効性」「積載した即席麺への影響」の検証を行った。

愛知海苔入札指定商組合
半田市で生販合同勉強会開催

愛知海苔入札指定商組合は、5月29日に半田市の愛知県漁連海苔流通センターで生販合同勉強会を開催、組合員各社並びに県内各地の生産者、愛知県環境局及び農業水産局の局員に加え、佐賀県の生産者も出席し意見交換が行われた。

久田和彦理事長は「今回の合同勉強会は、生販各社だけでなく水産海洋学に詳しい名城大学の鈴木輝明特任教授や愛知県環境局、農業水産局の局員にも出席してもらっている。この機会に様々なことを聞いて、海苔の生産拡大や海況の改善につなげていきたい。また、愛知県同様に生産枚数の減少に悩む佐賀有明からも出席があり、意見・情報を交換することで両漁場の活性化を図りたい」と挨拶した。

その後、愛知県の各漁協から今期の生産動向や今後の課題点についての報告がなされ、今期は海水温が高く漁期に遅れが見られたこと、特に2月頃などで栄養塩の減少が顕著となり色落ちが見られたことなどが報告。今後は海水温が上昇していることを念頭において生産に臨む必要があることや、栄養塩の増加のために排水規制の緩和を早急に進める必要があるとの声も聞かれた。

加工・販売業者からは6月からの価格改定を進めるなかで、価格に見合う高品質の海苔が必要であること、昨今は中国・韓国産の海苔の品質も高まるなかで、国内産ならではの価値が必要とされているといった意見が述べられた。

このほか、各漁連の生産実績、栄養塩の不足と対策となる排水規制の緩和に向けた取組みの進捗、カモなどの食害への対策などについて積極的な意見の交換が行われた。

中飲 食知る辺
チャンレンジ精神

成熟市場と言われる国内清涼飲料市場において、世界では十分な存在感があるが日本国内では定着した商品がなく、大きな可能性を秘めていると言われるのが、炭酸コーヒー、有糖グリーンティー、ホット炭酸である。なかでも炭酸コーヒーはメーカーが入れ替わりで提案を進めており、ヒットや市場定着があと一歩のところにあるとうかがえる。

日本国内は少子高齢化で清涼飲料市場は成熟し閉塞感がうかがえる。そのなかで新たな切り口で市場を活性化し、新規需要開拓につながるチャンレンジ精神溢れる商品の展開は、定番商品やその派生商品にできない役割であり重要だ。市場に貢献する商品として大事に育てたい。

なお以前と比べて外国人が多いことは、新規軸の商品の広がりにおいてはプラスになるのではないだろうか。

利久胡麻®
RIKYU SESAME
食の楽しみを広げる調味ごま
素材の味を引き立てる、辛みと香り、旨味と食感をお楽しみください

株式会社 真誠（しんせい） 〒481-8526 愛知県北名古屋市片場新町29 | TEL(0568)23-3311 FAX(0568)22-4245 | 北海道・東北営業部／関東営業部／中部営業部／近畿営業部／中四国営業部／九州営業部／関ヶ原工場／名古屋工場／胡麻の郷